



# 大久野通信

vol.33

## 猛暑の準備

里山は新緑が深い緑に変わり、桃の実も色づき始めました。去年は空梅雨でしたが今年はどうでしょうか。農業実証を始めて約4年経ちましたが、少しずつ自分たちのスタイルを確立してきました。通称マルチと呼ばれる黒い樹脂フィルムは防草や保湿ができて便利ですが、プラスチックを使用しない方針を掲げて使用を止めました。とはいえ、週末農家なので平日は水やりなどの手入れが出来ない悩みがありましたが、除草して表土を乾燥させてしまうと有用な土壌菌が死滅してしまうので、草をマルチ代わりに被せて保湿し土壌環境を整えるべきと専門家のアドバイスを頂きました。それ以来、自生する植物たちと仲良くするスタイルになりました。

### INDEX

01 猛暑前の準備作業

02 魔法の水？

03 今後の展望

01

### 猛暑前の準備作業

雑草と一括りに呼ばれる土地に根付いた植物たちは、日照時間の延長と平均気温の上昇に伴ってぐんぐんと成長し、この勢いは猛暑の時期まで続きます。畑では仲良くすることにした自生植物たちですが、畑以外では未整備で放置されている雰囲気になってしまうので、まだ涼しいこの時期に手入れをします。防草シートなどで遮光するのが一番効果的とは判っていますが、それもまた味気ない。効果が続くことを願い根からの根絶を試みますが結局夏場には元通り、毎年灼熱下の草刈りは避けられません。



草取り前



草取り後

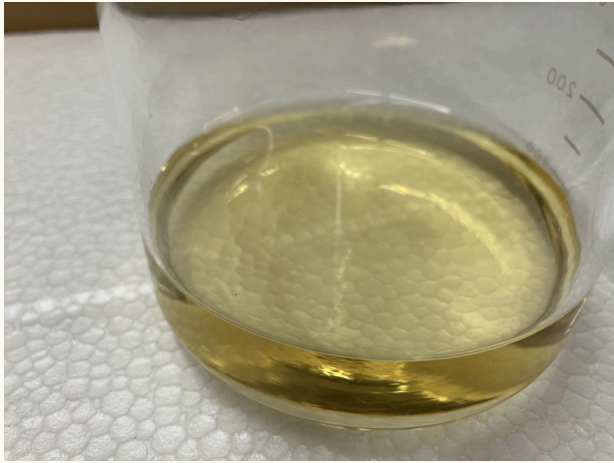
02

### 魔法の水？

栃木県芳賀郡茂木町の「モビリティリゾートもてぎ」には、人と自然が共存することをテーマとした体験型施設「ハローウッズ」があります(<https://www.mr-motegi.jp.hellowoods>)。園内には循環型の「森のトイレ」が2ヶ所設置されており、自然浄化法リアクターシステム®が採用されています。浄化した処理水を再利用するのですが、2000年の開業以来悪臭が全くなく快適で清潔な環境が保たれています。過去に臭いで困っていた別荘のトイレが、この循環水によって改善したとのこと。また、この水は落ち葉などの堆肥化を促進するようで、園内には実証施設がありました。水を分析したところ、フミン様物質が含まれており、自然浄化法リアクターシステム®を用いた他の水浄化設備の処理水でも同様の傾向が有ることが判りました。これを承け大久野倶楽部では、除草作業で出た草類を堆肥場に集めて、処理水の有無で堆肥化に違いが出るのか観察してみることにしました。



森のトイレ



循環させている水

03

### 今後の展望

JNCエンジニアリングの子会社である水俣アールビーエスでは、独自の水浄化技術「自然浄化法リアクターシステム®」で地域のし尿処理を行っています。標準活性汚泥法をベースとした微生物による浄化技術なので、生物の残渣が余剰汚泥として発生します。この汚泥を乾燥させて有機肥料「RBSゴールド」として販売しており、肥料成分のほかフミン酸・フルボ酸を含む腐植成分を有する特徴があります。森のトイレの事例をきっかけに処理水にも類似の成分が含まれていることが判りましたので、ものは試しで処理水を用いた水耕栽培試験を始めました。排水処理施設は、河川や下水道の受け入れ基準値以下に浄化するのが目的なので処理後の水で何かをするという発想はあまり聞きませんが、何かをしようとしている大久野倶楽部です。